

スポーツ団体の女性スポーツへの取り組みに 関する調査結果

2004 年 1 月 13 日

財団法人日本オリンピック委員会
女性スポーツ委員会

は じ め に

財団法人日本オリンピック委員会（ＪＯＣ）は、2006 年に熊本市において第 4 回世界女性スポーツ会議を開催（熊本市・ＮＰＯ法人ジュースとの共催）いたします。この世界女性スポーツ会議に向け、2001 年 6 月には「ブライトン宣言」に署名し、「女性とスポーツ」に関する諸問題への具体的検討を始めました。

2002 年 4 月には「女性スポーツプロジェクト」を起ち上げ、さらにこのプロジェクトを発展的に解消し、翌 2003 年 4 月にはＪＯＣの専門委員会として「女性スポーツ委員会」を設置いたしました。本委員会は、「スポーツでの女性の積極的な参加を促進する方策の企画・立案。」「国際競技力向上のため、女性指導者（コーチングスタッフ及び組織指導者）の育成。」「女性とスポーツに関するＪＯＣ加盟団体及び関連他団体との連携、調整。」をその所管事項としています。

国際競技力についてみると、わが国のオリンピックでのメダル獲得状況は、最近のシドニー、ソルトレークシティの 2 大会に関しては、メダル獲得総数の 70 % は女性が占めています。今後も、「ＪＯＣ ＧＯＬＤ ＰＬＡＮ」に掲げるメダル獲得率の倍増に向けて、女性の競技力向上は極めて重要であり、女性競技力の維持向上なくして、計画目標の達成は困難な状況にあるといっても過言ではありません。

一方、各種調査結果によると、女性のスポーツ実施率は男性のそれに比べて、およそ 10 % 低く、また競技団体への登録競技者数は男性の半数に過ぎません。このような現況において、わが国の女性競技者が極めて高い競技成績を残していることは快挙であり、また、わが国のスポーツ発展のために重要な示唆を提供していると言えます。

今般、本委員会ではＪＯＣ加盟競技団体、並びに財団法人日本体育協会加盟団体（都道府県体育協会・競技団体）を対象に、「スポーツ団体の女性スポーツへの取り組みに関する調査」を実施いたしました。各スポーツ団体が、「女性とスポーツ」に関してどのような課題を抱えているか。また、どのような認識を持っているかを調査し、今後の本委員会の活動の方向性を探ると共に、第 4 回世界女性スポーツ会議に向けての基礎調査といたしました。

この調査結果に基づき、本委員会では、わが国の「女性とスポーツ」に関する課題を明らかにし、今後、その解決に向けて取り組む所存です。関係各位には、今後とも本委員会の活動に関してご理解とご協力をお願いする次第です。

最後ではありますが、本調査にご回答いただきました各団体ならびに調査実施にご協力をいただきました日本体育協会ならびにＮＰＯ法人ジュースには厚く御礼を申し上げますとともに、本調査結果を活用していただき、ＪＯＣ女性スポーツ委員会とともに、わが国の女性スポーツの振興を推進していただくことをお願い申し上げます。

2004 年 1 月

財団法人日本オリンピック委員会
女性スポーツ委員会
委員長 小 野 清 子

目 次

1. 調査概要	1
2. 競技団体 調査結果	2
2.1. 男女別登録人数	2
2.2. 役員内訳	3
2.3. 各種内部委員会	4
2.4. 女性とスポーツの課題について検討する委員会等の有無	5
2.5. 女性とスポーツについての課題	7
2.6. 女性とスポーツについての課題の具体的な取り組み内容(主な回答)	9
2.7. JOC「女性スポーツ委員会」への期待・要望	12
2.8. 第4回世界女性スポーツ会議への要望	13
2.9. ま と め	14
3. 都道府県体育協会 調査結果	15
3.1. 役員内訳	15
3.2. 各種内部委員会	16
3.3. 女性とスポーツの課題について検討する委員会等の有無	17
3.4. 女性とスポーツについての課題	19
3.5. 女性とスポーツについての課題の具体的な取り組み内容(主な回答)	21
3.6. JOC「女性スポーツ委員会」への期待・要望	23
3.7. 第4回世界女性スポーツ会議への要望	24
3.8. ま と め	25
4. 調査票	26